

◎今週の御言葉 「イエス・キリストの姿変わり」(出エジプト記24章12～18節、マルコの福音書9章2～10節)

「山へ行き、わたしのところに上り、そこにおれ。彼らを教えるために、わたしが書きしるしたおしえと命令の石の板をあなたに授けよう。」(6)。「…イエスは、ペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、高い山に導いて行かれた。そして彼らの目の前で御姿が変わった。…また、エリヤが、モーセとともに現われ、彼らはイエスと語り合っていた。」(2-4)。

◎出エジプト記24章の最後で、神様はモーセに「山に登れ」と命じられたのです。それは、神様が契約を結んだ民に十戒及び細則を授けるためであり、また幕屋の建築を命じるためでした。イスラエルは神様から契約を与えられ、神の民とされたのです。幕屋は神様が臨在される目に見える外的しるしであり、民と会見される場所となるのです。ですから神様ご自身が細かい点にいたるまで指示されたのです。

◎マルコの福音書9:2-13節の平行記事はマタイ17:1-13、ルカ9:28-36です。主イエス様は三人の弟子(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)だけを連れて高い山に導びかれたのです。それは「祈る」ためです(ルカ)。そして祈っておられる時に「御姿が変わった(御顔は太陽のように輝き)。その御衣は、非常に白く光り、世のさらし屋では、とてもできないほどの白さであった」のです。これは主イエス様の神性の顕示であり、黙示録には顕著に啓示されております(1:14,16)。そこにモーセとエリヤが現れ、主イエス様と語り合っていたのです。モーセは旧約の律法の代表であり、エリヤは預言者の代表であり、「栄光のうちに現われて、イエスがエルサレムで遂げようとしておられるご最期についていっしょに話していたのである」(ルカ9:31)。イエス様御自身が「律法の完成者であり、預言されているメシヤ(救い主)であり、十字架によって成し遂げられる贖い」についての会話であったのです。

◎その時ペテロは「先生。私たちがここにいることは、すばらしいことです。私たちが、幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ」と告げましたが、これは主イエス様の苦難を避けさせる出来事に繋がることであり、神様の御心を理解していない発言でした。神様は主イエス様に受洗の時と同じ言葉を語られ、また弟子たちに「彼の言うことを聞きなさい」と命じられたのです。更に主イエス様は弟子たちに「エリヤはすでに来たのだ」と語り、ご自分の身に起こることを知らせ、復活の後にこの出来事を告げるようにと諭されたのです。弟子たちに必要なことは主イエス様のご臨在に触れ、み声を聴き、御心に従うことなのです。いつも臨在の主を見上げて歩む者であれ。